

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 8月11日

【評価実施概要】

事業所番号	3470204748		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 夕顔の家		
所在地 (電話番号)	広島市安佐南区八木八丁目9-23 (電話) 082-832-0355		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成21年8月8日	評価確定日	平成21年8月20日

【情報提供票より】(21年7月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 10人, 非常勤 4人, 常勤換算 12.0人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	建物は、新築と改装に分かれている。	
建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,500 ~ 75,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月17日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	6名	要介護2	5名
要介護3	4名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	名
年齢	平均 82歳	最低 54歳	最高 93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八谷歯科クリニック・ルネッサンス並木通り整形外科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、見渡すと山河と田畑に囲まれ四季の移り変わりが楽しめる自然豊かな環境の中に建っている。利用者は古き良き物を活かした改装型と、機能性を取り入れた新築型の各ユニットで、広く明るいリビングなどでゆったり、ゆっくりと、くつろぎながら過ごし、大きく設計された窓から見える外の景色を楽しんでいる。職員は、基本理念を踏まえ各自の課題を具体的目標として挙げ、ケアの実践に日々取り組んでいる。午前と午後のレクレーションの時に、音楽療法やラジオ体操等を取り入れて、入居者の活動レベルが下がらないように工夫している。また、管理者の熱意ある取り組み、職員の生き生きとした仕事振りが印象的で、若い職員の採用もホーム全体を活気づけることに一役買っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の結果を活かし、更なる向上を目指して基本理念を踏まえた具体的目標の作成や、地域や隣近所とのつきあいなどの改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で作成に取り組み、管理者がまとめている。結果を踏まえて職員各自が日々のケアを振り返り、課題を具体的目標として挙げ、質の確保と向上を図っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	参加メンバーから意見や要望が多数出され、双方向的な会議となっている。特に家族からの意見や要望、及び事業所からの取り組み状況などが詳細に報告されており、事業所にとって有意義な会議となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からの意見等は主に、運営推進会議の時や来訪時、電話などで聞き、その都度、内容を検討して対応している。また、家族等の立場に立った説明に心掛けており、このことは事業所への安心と信頼に繋がっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日頃の挨拶はもちろん、地域行事やいきいきサロンなどに積極的に出かけながら、また町の力を借りて地域の中でふつうの暮らしをいっしょに楽しむことへの取り組みを行っている。近隣の人から季節の野菜の差し入れや、子供達が立ち寄りたりする関係が作られており、継続した地道な努力が伺えた。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中でその人らしい暮らしと、人格を尊重し、笑顔で安心して生活できる介護…」を具体的にイメージし、また地域生活の継続支援を目標にした理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常日頃から、管理者と職員は理念についてミーティング等で理念について掘り下げて話し合いケアに活かす努力をしている。また、ホームの要所に理念を掲示して、全員が共有できるように日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の加入はまだであるが、地域の行事に参加したり、散歩時に挨拶したり、近隣の商店で買物をしたりしながら、少しずつ地域交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員で取り組み、外部評価の改善点についても、話し合って検討し、サービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所から運営状況の報告や地域行事の相談、避難訓練の実施方法等を話し合い、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市担当窓口に対して、運営状況の報告や懸案事項等についての相談を行う等交流を深めるように、努めている。また、市が開催する研修会や説明会には積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等の訪問時や電話を利用したり、手紙を書くなど日頃の状態を報告し、意見を聞くようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の希望や意見を出してもらえよう、話しやすい雰囲気作りや機会づくりを工夫しながら働きかけ、出来るだけ家族の意見に添うようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の離職や異動を最少限度に抑える努力をされており、現状では離職も少なく入居者と馴染みの関係が築かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常業務の中で新入職員には、管理者等が指導し、勉強会やミニカンファを行い日常のケアの取り組みを共有する他、外部研修にも参加している。また、全事業所での共通した研修計画や体制も構築されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他同業者との交流を多く持ちながら、情報交換や、事例検討等を通じてサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者が本人の自宅などに訪問し、話を聞いたり状態をよく聞いた上で、本人や家族にホームの見学と説明をし、納得してからサービスを開始している。慣れるまでは、職員間の申し送りなど情報を共有するように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒に過ごしながら、入居者の特技や趣味、料理等を教えてもらい、お互いの信頼関係を築きながらともに支えあう関係づくりに努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の日々の行動や会話の中から、思いや希望を把握出来るように努めている。また、家族や関係者からの情報も活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が本人・家族の希望を聞いており、家族、管理者、担当職員とでケース会議での話し合いをもとに介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、介護計画は入居者や家族の希望や意向を取り入れ、3ヶ月に1回定期的に見直しを実施している。また、状況の変化が見られる場合は随時の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、通院や外泊、外出等の支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望にそって、これまでのかかりつけ医を基本としている。また、協力医療機関での受診もあり気軽に相談や受診が出来る関係が築かれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、入居開始時に本人や家族、かかりつけ医などと話し合い、書面で意向を確認している。また、全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居開始時に、本人や家族とプライバシーの配慮について話し合いを行い、入居者の誇りを損ねるような言葉かけがないように細心の注意をしている。また、個人情報の漏洩防止にも取り組んでいる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者1人ひとりが自分のペースで楽しくゆっくり過ごせるように、その日の体調や希望にそって、食事時間や入浴時間、趣味、運動等を調整し、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来ることを見つけ、それに応じて配膳や食器ふき等それぞれの出番を作るように心がけている。食事中にもそのことや食材、味付けなどを話題にして、食事を楽しくいただけるようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日は決まっているが、入居者の希望に応じている。1人の入浴時間もゆったりとっており、楽しんでいただけるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日、食事の準備や後片付け、掃除、洗濯物たたみ、ゲーム等、日々喜びのある生活が出来るよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望、習慣、体力等その時の状況に応じて、その人なりの外出の楽しみ方を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害をよく理解しており、日中は全ての出入口に鍵を掛けておらず、職員の声かけや見守りで自由に行動出来るように配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、定期的に防災訓練を実施している。地域の協力体制については、運営推進会議等を通じて協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者1人ひとりの食事や水分摂取量は職員がおおよそ把握しており、入居者の好みや希望を採り入れたバランスの良い食事の内容となっている。また、管理栄養士の専門的な観点からもチェックを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員全員で自らの五感を活かしながら、入居者1人ひとりの感覚や価値観を大切にして、居心地よく入居者が自分なりの活動がしやすい場になるようにしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンス、椅子、カレンダー、写真、使い慣れた日用品等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう工夫がされている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 夕顔の家 ユニットA

評価年月日 平成21年 8月 8日 記入年月日 平成21年 7月 13日

記入者 職 管理職 氏名 平本 愛子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域住民の一員として共に生活していく中で、スーパー、病院等様々な利用機関との関係を持ちながら利用者が安心して暮らせるよう職員・家族が一丸となって懸け橋となることで理念の実現と向上ができています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝の復唱で意識を高め、管理者・職員が共有できるよう意味を理解することで、日々実践できている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族には説明と、たよりにわかりやすく明示し、広報を行っている。また、地域にはパンフレットの配布、運営推進会議の時などに説明をしている。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日頃から、挨拶をし合う等顔見知りのご近所さんも多い。 近所付き合いや関係作りだけでなく、災害時にも協力して頂ける様な馴染みの関係作りにも取り組んでいる。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域行事や役員会への出席、いきいきサロンなど、地域の一員として交流の場には積極的に参加している。また、施設の近辺が小学生の通学路でもあるので、子供110番や利用者の方々と安全確認なども行なっている。		生き生きサロンや地域行事の参加、近隣の方や小学生に立ち寄ってもらうなど、顔見知りの方も増え、徐々に交流の幅は広がっている。次のステップとして、自治会の入会、もしくは違う形で地域貢献に取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業所主催の勉強会を行ったり、日頃からよりどころの場として提供している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が評価の意義や活かし方を共有できるよう、評価を形式的な作業に終わらせず、日々勉強会等で向上意識を高めている。また、系列内の評価を管理者・職員交えて意見交換することで新しい取り組みを試みている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族・地域の方々の意見を参考に改善策を見出し、会議・評価後には全職員でミーティングをし、対策を練ってその後のサービス向上に具体的に生かせる取り組みを行っている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	こちらから積極的に伝えていく為に、入居者の介護保険の手続き・記録・ケア問題等、運営や現場での直面している課題に対して話し合い、解決に向けて協議し、取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修等に参加後、勉強会を開き全職員が理解に努めている。また、必要な方には活用出来る様に関係機関への橋渡しをしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修で学んだことを勉強会で伝達し、誰もが虐待の危険を早期に発見できるよう関係機関との協働を大切にしながら、防止と理解に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、利用者や家族に不安がないよう、十分な時間を設け、じっくりと説明をすること、職員はそれぞれの立場に立ち、相談等があれば柔軟に対応し、納得をして頂いた上で手続きを進めていく配慮をしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>利用者には運営推進会議の参加、ケアカンファレンスの参加をしていただき、意見等を聴いている。また、苦情、意見、相談をいつでも受けれるよう窓口を設け、都度、ミーティングで解決に努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>来所時にはもちろん、定期的な手紙の送付・電話連絡・家族ノートを活かして近況の報告に努めている。また、本人の状況に合わせてその都度家族とのコミュニケーションを密にしながら行っている。 金銭管理についても、出納帳を家族に毎月報告し、確認して頂いている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>アンケート、窓口の設置、家族ノートなど様々な手段で率直な意見・不満・苦情等があれば前向きに受け止め、家族が安心できる、職員との関係作りに努め、外部者に表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的なミーティングや個人的に現場職員の意見を聞く時間を十分に作り、運営者や管理者は、職員が気兼ねなく働く環境と意欲の向上や質の確保に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化，要望に柔軟な対応ができるよう，必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者や家族の状況や要望に沿ってローテーションでの勤務調整を行っており、実状によっては時間帯を変更するなど柔軟に対応している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は，利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように，異動や離職を必要最小限に抑える努力をし，代わる場合は，利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動や離職など、やむを得ず職員が交代する場合は、引継ぎの時間を十分に取り、尚且つ、利用者へのダメージを最小限にする為の検討やケア継続の為の配慮をしている。		
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は，管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各自の経験や、習熟度の段階に応じ、事業所内外の研修に参加し、日々職員が働きながら技術や知識の向上、意識を持てるような環境作りと育成に力を入れている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は，管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との交流を強化し、職場内で行き詰った日頃の悩みや緊急時の連携を行い、地域全体の向上に努めている。また、他施設の見学、研修会に参加することで、新しい取り組みとサービス向上に努めている。		他の事業所の運営推進会議や勉強会などの参加、訪問の受け入れをすることにより、サービス向上につながるよう取り組んでいきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は，管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員がストレスをためないよう、環境作りや直接相談できる体制と、メールなど間接的な手段をとることで、継続的ストレス軽減と心身を休めることのできる工夫に取り組んでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，各自が向上心を持って働けるように努めている。	管理者は、職員の日頃の努力や実績、勤務状況を把握し、見合ったベースアップや昇格をすることで、常に向上心を持って働けるように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	コミュニケーションを大切にし、不安な事・求めている事に耳を傾け、受け止めることが出来るよう努めている。また、金銭面、環境面、医療面など、さまざまな方面からも相談が受けれるよう努力している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	職員は家族とのコミュニケーションを密にとりながら、一人ひとりの状態をくみ取り、理解しながら支援している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者と家族の要望に出来る限り対応していくように努め、必要に応じてできる事は速やかに実行している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気次第に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	これまでの生活歴など十分な話し合いをし、安心と納得をした上で柔軟に支援している。		

2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個性や力、どの様に生活していきたいかの意向を知る為に、「共に過ごし、学び、支え合う」事を大切に、喜怒哀楽を共にする関係を築いている。また、利用者主体の環境作りに努めている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員と家族が連絡を密にししながら、生活の中での喜怒哀楽も共にしながら、本人の生活を支援し、対等な関係を築いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	これまでの本人と家族との関係を考慮したうえで、ホームでの生活や介護にも家族がより深く関わっていけるよう、機会作りと場面を大切にしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までの人間関係や社会との関係を把握し、関係が途切れないように支援している。 また、馴染みの調度品、季節行事への参加や外出も積極的に行うことで、今までと変わらない環境作りを出来るだけ実現している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者間での関係作りを支援しながら、孤立する事なく、共に暮らしを楽しめる様支援している。 また、気の合う利用者同士で過ごせるよう配慮することで、関わり合いを深くしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	個々の事情でここでのサービスが終了した後も、必要に応じて民生委員等を通し、相談しながら支援・相談に応じる姿勢を示している。また、転居先に職員が訪問するなどして、関係が断ち切らないよう働きかけている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活暦や経験、生活の意向などの把握に努め、介護計画に反映させるとともに、安心した生活が送れるように努めている。また、職員は都度、本人が活躍できる場面作りを家族と共に協働している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	プライバシーに配慮しながら、本人に関わりのある方から情報の提供、協力をしてもらおうことで、馴染みの関係を築き上げ、これまでの暮らしを括えていけるように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員全員がチームとなり、利用者本人が出来る力・分かる力を日々の暮らしの中で発見し、一人ひとりの状況を把握できるように努めている。また、変化があれば都度、基本情報、ケアプランの更新を行い、職員全員が把握できるよう努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人及び、家族・関係者からの意見、アイデアを基に本人がその人らしく暮らす支援として何が必要かを検討し、介護計画を作成している。また、ケアのあり方については、本人、家族、関係者とじっくり話し合うことで、共に理解を深めている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎の見直し期間はもちろん、本人・家族の要望や変化に応じて臨機応変に見直し、すぐに現場で実践的な対応ができるよう、職員全員が把握できる体制と取り組みをしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録には職員しか知りえない事実やケアの気付きを具体的に記し、それらを職員間で共有しながら日々のケアに活かしている。またそれらを介護計画の見直しにも活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族の状況や要望に応じて宿泊や食事の提供を行っている。また、協力病院への通院支援や必要に応じて同系列の老健や協力病院への転居ができる等の対応をしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会や民生委員、各機関（消防・ボランティア・学校等）の理解・協力を得て、少しでも安らかに生き生きとした暮らしを作っていけるように取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	利用者本人の希望をかなえる為、施設内で抱え込まず、本人を良く知る家族やその他関係者と話し合い、協力を得ることで、さまざまな業種からのサービスが利用できる様に支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の時だけではなく、随時、協働しながら、認知症の人を地域で支えていけるよう取り組んでいる。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人もしくは家族の希望する医療機関で受診している。また、医師の訪問診療、受け入れ病院連携（ルネッサンス並通り整形外科）各医療機関関係者確保（外科・内科・皮膚科・歯科）により、適切な医療を受けられるよう支援している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	受診支援のある医療機関では親切に対応していただいている（必要なときには往診あり）。また、当理事長林 Dr. と主治医の西野 Dr. に相談することで指示、助言を頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	個別の状態を良く知る看護師が常駐しており、日常の健康面や医療面的な面について他の職員と情報を共有し対応すると共に、緊急時の対応、薬について等勉強会を開き、協働体制を築いている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	本人のストレスや負担を軽減する為に、家族や医療関係者と相談しながら、スムーズな退院に繋がるよう退院計画を本人、家族、スタッフで話し合い、支援を行っている。また、入院された場合は、こまめに連絡をとって医師同士の連携もあり、受け入れ態勢も整っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居と同時に本人・家族・医師・スタッフと話し合い、家族の意向を確認し、全員で明確に共有している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>対応が可能なこと、困難なこと、不安なこと等を介護スタッフはもちろん、ケアマネ・医師・看護師などの専門的な視点からの意見も考慮し、率直に話し合うことで、家族や医療関係者等との連携が図れて、チームでの支援体制が整えている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>移り住むダメージを最小限に留める為に、関係者に対して本人の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え、協働することで継続的な支援ができています。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員一同、利用者・家族に対して敬意を払い尊重する姿勢を日々心掛け、プライバシー確保については常に確認と意識を持つよう努めている。また、記録等の個人情報が外部に漏れないよう事業所管理の徹底をしている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の表情や反応、本人にとっての意思表示をすばやくキャッチしながら、把握し理解した上で、本人視点に合わせた説明をしながら密接な関係作りや馴染みの中で生活が出来るよう支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりの生活のリズムやその日にしたいと思っている事を優先し、状態や思いを考慮しながら臨機応変に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	一人ひとりの個性・希望、これまでの生活暦をもとに、髪型や服装、お洒落をそれぞれに支援し、季節感も大事にしなが、本人の好みや意向に近づけるよう支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	できる力を最大限且つ無理のないように活かしてもらい、準備から手伝っていただき、空いている席で、利用者と共に食事を楽しむようにし、さりげなくサポートしている。 食後の後片付けも本人を尊重しながら一緒に行うようにしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	自宅と同様に馴染みの嗜好品が楽しめるようにし、他の利用者の迷惑にならないように配慮しながら支援している。また、本人が欲しい物があれば、一緒に買い物に出かけたり、難しい方には職員・家族が代わりに支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来るまで見守りを行い、出来ない部分をさりげなくカバーしながら、利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員のペースではなく、基本的には、利用者の希望（時間帯・長さ等）に合わせて入浴してもらおうとともに、職員はプライバシーを損ねないようそっと見守るなどの支援をしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	これまでの生活習慣等を関係者と検討しながら、本人にとっての自然なリズムで必要な休息や睡眠をとれるよう環境作りと支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	潜在している記憶やできる力を最大限活かして自分らしく暮らせるように, 園芸・掃除・食器洗い等個々の力量, 好みに合わせた役割や楽しみ, 気晴らしの支援をしている。また, 音楽療法や, 季節ごとの行事等を定期的に関催し, 楽しみ事が増えるよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	家族とも本人にとっての金銭の意味を話し合い, 個々の力量を考慮した上で, 管理方法をとりきめて, 小銭を所持してもらったり買い物に行く時は本人が支払えるよう支援するなど, お金がある安心感や満足感を得ていただけるよう努めている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	個々の希望に沿って買い物や散歩に出掛ける等日常的に外出できるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	行きたいところを本人や家族から把握しており, 馴染みの関係や各種サービスを活かしてふさと訪問や墓参り等の機会をつくり支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙・暑中見舞い・年賀状等を書いて頂いており, プライバシーに配慮しながら本人が読み書きしたり, 電話を使用することを個別に支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪ねやすい環境・雰囲気作りと, 居心地良く過ごせる様に, 訪問時には湯茶等の用意や利用者と家族, 面会者が団欒できるスペースの工夫をしている。また, 宿泊を希望される場合は, ベッドの貸出なども行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者が受ける身体的・精神的障害について、全職員が理解しており、必要に応じて専門職の助言を受けながら拘束しないための支援を常日頃から行っている。また、ミーティング、勉強会、研修などにも積極的に参加し、職員間で共有し合うことで、意識と知識の向上に努めている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	SECOMを導入している為、日中は鍵を掛けなくても良く、また、目の届かない場所で察知できるようになっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、昼夜通して全員の様子を常に見守れるように位置し、プライバシーに配慮しながらさりげなく観察できるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員全員で把握し、家族とともに管理方法の確認や取り決め、見直しを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒアリハットやマニュアルを理解しながら、一人ひとりの状況やリスクを検討し、職員全員が把握と知識の向上に努めている。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	当理事長林Dr、主治医西野Dr、看護師の指示・指導のもと全ての職員が応急手当に関して定期的に訓練を行っており、緊急時に活かせる技術を身につけていけるよう取り組んでいる。また、当事業所で消防署主催の訓練なども行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>地域の人々や他の事業所の協力が得られるように、日頃から話し合いを行い、一緒に訓練を行う等、取り組みを行っている。また、マニュアル作成と、避難・防火訓練等も行っている。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>家族との普段からの関係作りを基盤に、一人ひとりに予測されるリスクについて状況変化に応じて繰り返し率直に話し合うようにし、対応策を立て、リスク軽減に努めている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>変化や異常の兆候をいち早く気付き、緊急連絡網を活用し、全職員は、迅速かつ的確な早期対応に取り組んでいる。</p>		
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>医師、看護師を交えて薬についてのミーティング、勉強会を行っており、飲み忘れや誤薬については細心の注意を払っている。また、心身上の変化や課題が見られた場合は速やかに医療者に情報提供を行っている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>個々の便秘の原因を探り、食事、排泄、活動状態等を見直し、家族とも相談しながら自然排便を促すよう働きかけている。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の歯磨き、イソジンの使用、義歯洗浄等を行い、利用者の力を引き出しながら口腔内の清潔保持に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	入居者一人ひとりに合わせ、また、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食を食べやすく刻んだり、管理栄養士を中心に対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	当理事長林 Dr.、主治医西野 Dr.作成のマニュアルをもとに勉強会を行っており、実行している。また、感染症の流行や対応策について日常的に情報が得られるよう努力している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	清潔・衛生を保つための管理方法を取り決めており、場合によってはアルコール殺菌するとともに、食器は毎食後、食洗機を用いて加熱消毒をするなど清潔を常に保っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	利用者や家族等、地域の人たちの感想や意見を参考に、玄関周りや庭に草花や野菜を季節毎に植え替える等工夫し、訪問しやすい環境作りを心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間が自分の力でその人らしく過ごせる場となるように、利用者一人ひとりの意見を参考にして居心地の良い場所となるように配慮している。また、季節感を表す為の飾り付けや、雰囲気作りに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で休む空間と、フロアで他の入居者と自由に団楽できる空間を設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた調度品を持ち込んだり、使いやすい物を購入したりと、居心地良く、プライバシーに配慮した安心できる環境作りを本人・家族と共に努めている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日全棟の窓を開け換気を行っており、入居者一人ひとりの状態や反応を見ながら、季節に応じてできるだけ自然環境に近い空調の管理に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全且つ快適に過ごせるよう、一人ひとりの身体機能、状態に合わせた危険の防止や自らの力を活かして自立に向け道具の工夫をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の入り口には目線に合わせて名札を付け迷わないように配慮し、トイレや浴室等もわかりやすく明示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	利用者と一緒に外周りの園芸スペースに花や野菜を植えたり、草取りをして触れる喜びが持てる環境ができている。ベランダについても一緒に洗濯物を干したり、日光浴をする場としてのスペースも充実しているため、日頃から活用している。また、天候のよい日には、外で食事ができるよう支援している。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 夕顔の家 ユニットB

評価年月日 平成21年 8月 8日 記入年月日 平成21年 7月 13日

記入者 職 管理職 氏名 横山 信郁

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域住民の一員として共に生活していく中で、スーパー、病院等様々な利用機関との関係を持ちながら利用者が安心して暮らせるよう職員・家族が一丸となって懸け橋となることで理念の実現と向上ができています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝の復唱で意識を高め、管理者・職員が共有できるよう意味を理解することで、日々実践できている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族には説明と、たよりにわかりやすく明示し、広報を行っている。また、地域にはパンフレットの配布、運営推進会議の時などに説明をしている。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日頃から、挨拶をし合う等顔見知りのご近所さんも多い。 近所付き合いや関係作りだけでなく、災害時にも協力して頂ける様な馴染みの関係作りにも取り組んでいる。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域行事や役員会への出席、いきいきサロンなど、地域の一員として交流の場には積極的に参加している。また、施設の近辺が小学生の通学路でもあるので、子供110番や利用者の方々と安全確認なども行なっている。		生き生きサロンや地域行事の参加、近隣の方や小学生に立ち寄ってもらうなど、顔見知りの方も増え、徐々に交流の幅は広がっている。次のステップとして、自治会の入会、もしくは違う形で地域貢献に取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業所主催の勉強会を行ったり、日頃からよりどころの場として提供している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が評価の意義や活かし方を共有できるよう、評価を形式的な作業に終わらせず、日々勉強会等で向上意識を高めている。また、系列内の評価を管理者・職員交えて意見交換することで新しい取り組みを試みている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族・地域の方々の意見を参考に改善策を見出し、会議・評価後には全職員でミーティングをし、対策を練ってその後のサービス向上に具体的に生かせる取り組みを行っている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	こちらから積極的に伝えていく為に、入居者の介護保険の手続き・記録・ケア問題等、運営や現場での直面している課題に対して話し合い、解決に向けて協議し、取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修等に参加後、勉強会を開き全職員が理解に努めている。また、必要な方には活用出来る様に関係機関への橋渡しをしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修で学んだことを勉強会で伝達し、誰もが虐待の危険を早期に発見できるよう関係機関との協働を大切にしながら、防止と理解に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、利用者や家族に不安がないよう、十分な時間を設け、じっくりと説明をすること、職員はそれぞれの立場に立ち、相談等があれば柔軟に対応し、納得をして頂いた上で手続きを進めていく配慮をしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>利用者には運営推進会議の参加、ケアカンファレンスの参加をしていただき、意見等を聴いている。また、苦情、意見、相談をいつでも受けれるよう窓口を設け、都度、ミーティングで解決に努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>来所時にはもちろん、定期的な手紙の送付・電話連絡・家族ノートを活かして近況の報告に努めている。また、本人の状況に合わせてその都度家族とのコミュニケーションを密にしながら行っている。 金銭管理についても、出納帳を家族に毎月報告し、確認して頂いている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>アンケート、窓口の設置、家族ノートなど様々な手段で率直な意見・不満・苦情等があれば前向きに受け止め、家族が安心できる、職員との関係作りに努め、外部者に表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的なミーティングや個人的に現場職員の意見を聞く時間を十分に作り、運営者や管理者は、職員が気兼ねなく働く環境と意欲の向上や質の確保に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化，要望に柔軟な対応ができるよう，必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者や家族の状況や要望に沿ってローテーションでの勤務調整を行っており、実状によっては時間帯を変更するなど柔軟に対応している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は，利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように，異動や離職を必要最小限に抑える努力をし，代わる場合は，利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動や離職など、やむを得ず職員が交代する場合は、引継ぎの時間を十分に取り、尚且つ、利用者へのダメージを最小限にする為の検討やケア継続の為の配慮をしている。		
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は，管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各自の経験や、習熟度の段階に応じ、事業所内外の研修に参加し、日々職員が働きながら技術や知識の向上、意識を持てるような環境作りと育成に力を入れている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は，管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との交流を強化し、職場内で行き詰った日頃の悩みや緊急時の連携を行い、地域全体の向上に努めている。また、他施設の見学、研修会に参加することで、新しい取り組みとサービス向上に努めている。		他の事業所の運営推進会議や勉強会などの参加、訪問の受け入れをすることにより、サービス向上につながるよう取り組んでいきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は，管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員がストレスをためないよう、環境作りや直接相談できる体制と、メールなど間接的な手段をとることで、継続的ストレス軽減と心身を休めることのできる工夫に取り組んでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，各自が向上心を持って働けるように努めている。	管理者は、職員の日頃の努力や実績、勤務状況を把握し、見合ったベースアップや昇格をすることで、常に向上心を持って働けるように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-----------------------	---------------------------------

安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	コミュニケーションを大切にし、不安な事・求めている事に耳を傾け、受け止めることが出来るよう努めている。また、金銭面、環境面、医療面など、さまざまな方面からも相談が受けれるよう努力している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	職員は家族とのコミュニケーションを密にとりながら、一人ひとりの状態をくみ取り、理解しながら支援している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者と家族の要望に出来る限り対応していくように努め、必要に応じてできる事は速やかに実行している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気次第に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	これまでの生活歴など十分な話し合いをし、安心と納得をした上で柔軟に支援している。		

2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個性や力、どの様に生活していきたいかの意向を知る為に、「共に過ごし、学び、支え合う」事を大切に、喜怒哀楽を共にする関係を築いている。また、利用者主体の環境作りに努めている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員と家族が連絡を密にしながらか、生活の中での喜怒哀楽も共にしながら、本人の生活を支援し、対等な関係を築いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	これまでの本人と家族との関係を考慮したうえで、ホームでの生活や介護にも家族がより深く関わっていけるよう、機会作りと場面を大切にしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までの人間関係や社会との関係を把握し、関係が途切れないように支援している。 また、馴染みの調度品、季節行事への参加や外出も積極的に行うことで、今までと変わらない環境作りを出来るだけ実現している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者間での関係作りを支援しながら、孤立する事なく、共に暮らしを楽しめる様支援している。 また、気の合う利用者同士で過ごせるよう配慮することで、関わり合いを深くしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	個々の事情でここでのサービスが終了した後も、必要に応じて民生委員等を通し、相談しながら支援・相談に応じる姿勢を示している。また、転居先に職員が訪問するなどして、関係が断ち切らないよう働きかけている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活暦や経験、生活の意向などの把握に努め、介護計画に反映させるとともに、安心した生活が送れるように努めている。また、職員は都度、本人が活躍できる場面作りを家族と共に協働している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	プライバシーに配慮しながら、本人に関わりのある方から情報の提供、協力をしてもらうことで、馴染みの関係を築き上げ、これまでの暮らしを括えていけるように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員全員がチームとなり、利用者本人が出来る力・分かる力を日々の暮らしの中で発見し、一人ひとりの状況を把握できるように努めている。また、変化があれば都度、基本情報、ケアプランの更新を行い、職員全員が把握できるよう努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人及び、家族・関係者からの意見、アイデアを基に本人がその人らしく暮らす支援として何が必要かを検討し、介護計画を作成している。また、ケアのあり方については、本人、家族、関係者とじっくり話し合うことで、共に理解を深めている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎の見直し期間はもちろん、本人・家族の要望や変化に応じて臨機応変に見直し、すぐに現場で実践的な対応ができるよう、職員全員が把握できる体制と取り組みをしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録には職員しか知りえない事実やケアの気付きを具体的に記し、それらを職員間で共有しながら日々のケアに活かしている。またそれらを介護計画の見直しにも活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族の状況や要望に応じて宿泊や食事の提供を行っている。また、協力病院への通院支援や必要に応じて同系列の老健や協力病院への転居ができる等の対応をしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会や民生委員、各機関（消防・ボランティア・学校等）の理解・協力を得て、少しでも安らかに生き生きとした暮らしを作っていけるよう取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	利用者本人の希望をかなえる為、施設内で抱え込まず、本人を良く知る家族やその他関係者と話し合い、協力を得ることで、さまざまな業種からのサービスが利用できる様に支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の時だけではなく、随時、協働しながら、認知症の人を地域で支えていけるよう取り組んでいる。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人もしくは家族の希望する医療機関で受診している。また、医師の訪問診療、受け入れ病院連携(ルネッサンス並通り整形外科) 各医療機関関係者確保(外科・内科・皮膚科・歯科)により、適切な医療を受けられるよう支援している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	受診支援のある医療機関では親切に対応していただいている(必要なときには往診あり)。また、当理事長林 Dr. と主治医の西野 Dr. に相談することで指示、助言を頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	個別の状態を良く知る看護師が常駐しており、日常の健康面や医療面的な面について他の職員と情報を共有し対応すると共に、緊急時の対応、薬について等勉強会を開き、協働体制を築いている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	本人のストレスや負担を軽減する為に、家族や医療関係者と相談しながら、スムーズな退院に繋がるよう退院計画を本人、家族、スタッフで話し合い、支援を行っている。また、入院された場合は、こまめに連絡をとって医師同士の連携もあり、受け入れ態勢も整っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居と同時に本人・家族・医師・スタッフと話し合い、家族の意向を確認し、全員で明確に共有している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>対応が可能なこと、困難なこと、不安なこと等を介護スタッフはもちろん、ケアマネ・医師・看護師などの専門的な視点からの意見も考慮し、率直に話し合うことで、家族や医療関係者等との連携が図れて、チームでの支援体制が整えている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>移り住むダメージを最小限に留める為に、関係者に対して本人の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え、協働することで継続的な支援ができています。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員一同、利用者・家族に対して敬意を払い尊重する姿勢を日々心掛け、プライバシー確保については常に確認と意識を持つよう努めている。また、記録等の個人情報が外部に漏れないよう事業所管理の徹底をしている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の表情や反応、本人にとっての意思表示をすばやくキャッチしながら、把握し理解した上で、本人視点に合わせた説明をしながら密接な関係作りや馴染みの中で生活が出来るよう支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりの生活のリズムやその日にしたいと思っている事を優先し、状態や思いを考慮しながら臨機応変に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	一人ひとりの個性・希望、これまでの生活暦をもとに、髪型や服装、お洒落をそれぞれに支援し、季節感も大事にしなが、本人の好みや意向に近づけるよう支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	できる力を最大限且つ無理のないように活かしてもらい、準備から手伝っていただき、空いている席で、利用者と共に食事を楽しむようにし、さりげなくサポートしている。 食後の後片付けも本人を尊重しながら一緒に行うようにしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	自宅と同様に馴染みの嗜好品が楽しめるようにし、他の利用者の迷惑にならないように配慮しながら支援している。また、本人が欲しい物があれば、一緒に買い物に出かけたり、難しい方には職員・家族が代わりに支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来るまで見守りを行い、出来ない部分をさりげなくカバーしながら、利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員のペースではなく、基本的には、利用者の希望(時間帯・長さ等)に合わせて入浴してもらおうとともに、職員はプライバシーを損ねないようそっと見守るなどの支援をしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	これまでの生活習慣等を関係者と検討しながら、本人にとっての自然なリズムで必要な休息や睡眠をとれるよう環境作りと支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	潜在している記憶やできる力を最大限活かして自分らしく暮らせるように, 園芸・掃除・食器洗い等個々の力量, 好みに合わせた役割や楽しみ, 気晴らしの支援をしている。また, 音楽療法や, 季節ごとの行事等を定期的に関催し, 楽しみ事が増えるよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	家族とも本人にとっての金銭の意味を話し合い, 個々の力量を考慮した上で, 管理方法をとりきめて, 小銭を所持してもらったり買い物に行く時は本人が支払えるよう支援するなど, お金がある安心感や満足感を得ていただけるよう努めている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	個々の希望に沿って買い物や散歩に出掛ける等日常的に外出できるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	行きたいところを本人や家族から把握しており, 馴染みの関係や各種サービスを活かしてふさと訪問や墓参り等の機会をつくり支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙・暑中見舞い・年賀状等を書いて頂いており, プライバシーに配慮しながら本人が読み書きしたり, 電話を使用することを個別に支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪ねやすい環境・雰囲気作りと, 居心地良く過ごせる様に, 訪問時には湯茶等の用意や利用者と家族, 面会者が団欒できるスペースの工夫をしている。また, 宿泊を希望される場合は, ベッドの貸出なども行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者が受ける身体的・精神的障害について、全職員が理解しており、必要に応じて専門職の助言を受けながら拘束しないための支援を常日頃から行っている。また、ミーティング、勉強会、研修などにも積極的に参加し、職員間で共有し合うことで、意識と知識の向上に努めている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	SECOMを導入している為、日中は鍵を掛けなくても良く、また、目の届かない場所で察知できるようになっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、昼夜通して全員の様子を常に見守れるように位置し、プライバシーに配慮しながらさりげなく観察できるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員全員で把握し、家族とともに管理方法の確認や取り決め、見直しを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒアリハットやマニュアルを理解しながら、一人ひとりの状況やリスクを検討し、職員全員が把握と知識の向上に努めている。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	当理事長林Dr、主治医西野Dr、看護師の指示・指導のもと全ての職員が応急手当に関して定期的に訓練を行っており、緊急時に活かせる技術を身につけていけるよう取り組んでいる。また、当事業所で消防署主催の訓練なども行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>地域の人々や他の事業所の協力が得られるように、日頃から話し合いを行い、一緒に訓練を行う等、取り組みを行っている。また、マニュアル作成と、避難・防火訓練等も行っている。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>家族との普段からの関係作りを基盤に、一人ひとりに予測されるリスクについて状況変化に応じて繰り返し率直に話し合うようにし、対応策を立て、リスク軽減に努めている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>変化や異常の兆候をいち早く気付き、緊急連絡網を活用し、全職員は、迅速かつ的確な早期対応に取り組んでいる。</p>		
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>医師、看護師を交えて薬についてのミーティング、勉強会を行っており、飲み忘れや誤薬については細心の注意を払っている。また、心身上の変化や課題が見られた場合は速やかに医療者に情報提供を行っている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>個々の便秘の原因を探り、食事、排泄、活動状態等を見直し、家族とも相談しながら自然排便を促すよう働きかけている。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の歯磨き、イソジンの使用、義歯洗浄等を行い、利用者の力を引き出しながら口腔内の清潔保持に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	入居者一人ひとりに合わせ、また、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食を食べやすく刻んだり、管理栄養士を中心に対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	当理事長林 Dr.、主治医西野 Dr.作成のマニュアルをもとに勉強会を行っており、実行している。また、感染症の流行や対応策について日常的に情報が得られるよう努力している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	清潔・衛生を保つための管理方法を取り決めており、場合によってはアルコール殺菌するとともに、食器は毎食後、食洗機を用いて加熱消毒をするなど清潔を常に保っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	利用者や家族等、地域の人たちの感想や意見を参考に、玄関周りや庭に草花や野菜を季節毎に植え替える等工夫し、訪問しやすい環境作りを心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間が自分の力でその人らしく過ごせる場となるように、利用者一人ひとりの意見を参考にして居心地の良い場所となるように配慮している。また、季節感を表す為の飾り付けや、雰囲気作りに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で休む空間と、フロアで他の入居者と自由に団樂できる空間を設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた調度品を持ち込んだり、使いやすい物を購入したりと、居心地良く、プライバシーに配慮した安心できる環境作りを本人・家族と共に努めている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日全棟の窓を開け換気を行っており、入居者一人ひとりの状態や反応を見ながら、季節に応じてできるだけ自然環境に近い空調の管理に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全且つ快適に過ごせるよう、一人ひとりの身体機能、状態に合わせた危険の防止や自らの力を活かして自立に向け道具の工夫をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の入り口には目線に合わせて名札を付け迷わないように配慮し、トイレや浴室等もわかりやすく明示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	利用者と一緒に外周りの園芸スペースに花や野菜を植えたり、草取りをして触れる喜びが持てる環境ができている。ベランダについても一緒に洗濯物を干したり、日光浴をする場としてのスペースも充実しているため、日頃から活用している。また、天候のよい日には、外で食事ができるよう支援している。		